地球通信

KOKUSAI KOTOBA GAKUIN
学校法人 国際ことば学院

学校法人　国際ことば学院　法人本部事務局
〒422-8076　静岡市駿河区八幡3-2-12
TEL:054-286-0788　FAX:054-260-7836
https://www.kotoba.ac.jp

聖なる仏教国・輝ける島スリランカ

理事長　袴田靖子



食に興味のある私がスリランカで気に入っているものは、魚（できれば鰹がいい）を使ったココナッツカレー、黒砂糖付きジンジャーティ、大きくて香ばしいカシューナッツだろうか。そして文化としては、伝統医療アユルヴェーダや自然との調和精神、人々のゆったりとエレガントな所作と控えめな態度なども魅力的だ。魅力は多々あるものの、では、スリランカ人やスリランカという国を作っている土台はいったい何だろうか。

先月 22 日から 29 日までスリランカを訪問した。出発前からある一つの考えが頭に浮かんでいて、それが先ほどの答えかもしれないと少しワクワクしながらスリジャヤワルダナプラコッテ空港に降り立った。それは、スリランカは、オーストロネシアの文化圏に属しているのではないかという考えだ。オーストロネシアとは、ポリネシア、ミクロネシア、メラネシアなど台湾から太平洋へと拡散した人々の総称である。つまり、スリランカはミクロネシアやポリネシアのような南の島の文化を色濃く持っている国ではないかという考えである。ところが、小ぎれいで静かな町の雰囲気や人々の振る舞いを目にしていくうちに、スリランカは南の島のイメージから少しずつ離れていった。

スリランカに入国して四日目、ユネスコ世界遺産の仏教寺院“Jaya Sri Maha Bodhi”を訪れた。特に、『ポーヤ・デイ』という一か月に一度ある仏教徒にとって大切なイベントの日にあたったため、花やお菓子などのお供え物を持って参詣した。境内では靴も靴下も脱がなければならない。この日は太陽が照り付ける真夏のような日だったため、素足にとって石畳は焼けるようだった。ゴータマ・シッダルタがインドのブッダガヤで、その下で悟りを開いたとされる菩提樹の一枝がスリランカに持ち込まれたと言われており、生まれたばかりの赤ちゃんから杖をついて歩くようなお年寄りまで、白い服を身にまといその聖なる菩提樹を目指す。ようやくお参りやお供えが済んでも多くの人は寺院を去ろうとしない。私の案内役の方も寺院の中では敬けんな仏教徒へと姿を変えた。何回も地面に額を擦り付けて祈る姿を目にし、「私にはこの純粋さはないな」と、雑念まみれの自分に恥ずかしさを覚えた。広い境内に点在する人々の祈りの様子は、まるで一枚の美しい絵画を見るような夢の一時であった。

スリランカを去るころには、確かにタミル人もムスリムも多くいるが、スリランカという国を作っている土台は、信心深いアーリア系シンハラ人による上座部仏教なのだという考えに落ち着いていった。謙虚さと知性を感じさせる国であり、激しさや強さよりも穏やかさ、派手さよりも落ち着き、積極性より控えめで目立たないことを美徳とする、そして、何より慈悲深い仏教徒の住む美しい島国であった。

最後に、忘れてはならない歴史上の出来事がある。戦後サンフランシスコ講和会議において、スリランカのジャヤワルダナ大統領は、「『憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む』というブッダの言葉を引用し、対日賠償請求権を放棄し、日本の国際社会復帰への道筋を作った」とされる。教育の現場に立つ身として、スリランカは敗戦国日本にとっての恩人であることも心に留めておきたいと思う。

COLLEGE OF FOREIGN LANGUAGES
国際ことば学院外国語専門学校



10 月 27 日（火）は KKG HALLOWEEN DAY。

学生たちは、英語の授業でハロウィンの起源や歴史を学んだり、黒猫やオバケなどの仮面をつけ、童心に返ったように Trick or Treat をしたりと、普段と違う 1 日にワクワクした様子でした。

そして、KKG HALLOWEEN DAY と言えば！！毎年本格的な仮装で注目を集める青山先生。今年はアメリカの某有名ホラー映画に登場する地球外生命体をイメージした仮装でした。あまりの恐ろしさに、思わず後ずさりする学生も・・・！青山先生のおかげで、学生たちのハロウィン気分がとても高まったようです。今年も期待を裏切らない圧巻のクオリティでした！





就職支援室より

今年度は留学生の就職が例年以上に厳しい年となりそうです。一番の要因は在留資格運用厳格化を入管が発表したところから始まり、今までグレーゾーンとして働けていた対人業務（ホテルフロント等）も、これからは専門職としての適性（日本語能力 CEFR B2 相当 ／ JLPT N2 相当）を満たしているか厳密に審査されることになりました。学校としても今年度は【技・人・国】だけではなく【特定技能】も取り入れ、9 月には特定技能に特化した会社説明会を行い 1 年生 24 名、2 年生 26 名の計 50 名が【もしも（技・人・国に失敗した場合）の時のため】真剣に話を聞いてくれました。（写真は会社説明会の様子です）

11 月に入り就職活動も後半戦です。学生も入管の政策には敏感になっているので、少しでも不安や心配を与えないよう、一人ずつ丁寧にサポートを進めていきたいと考えています。(山西)





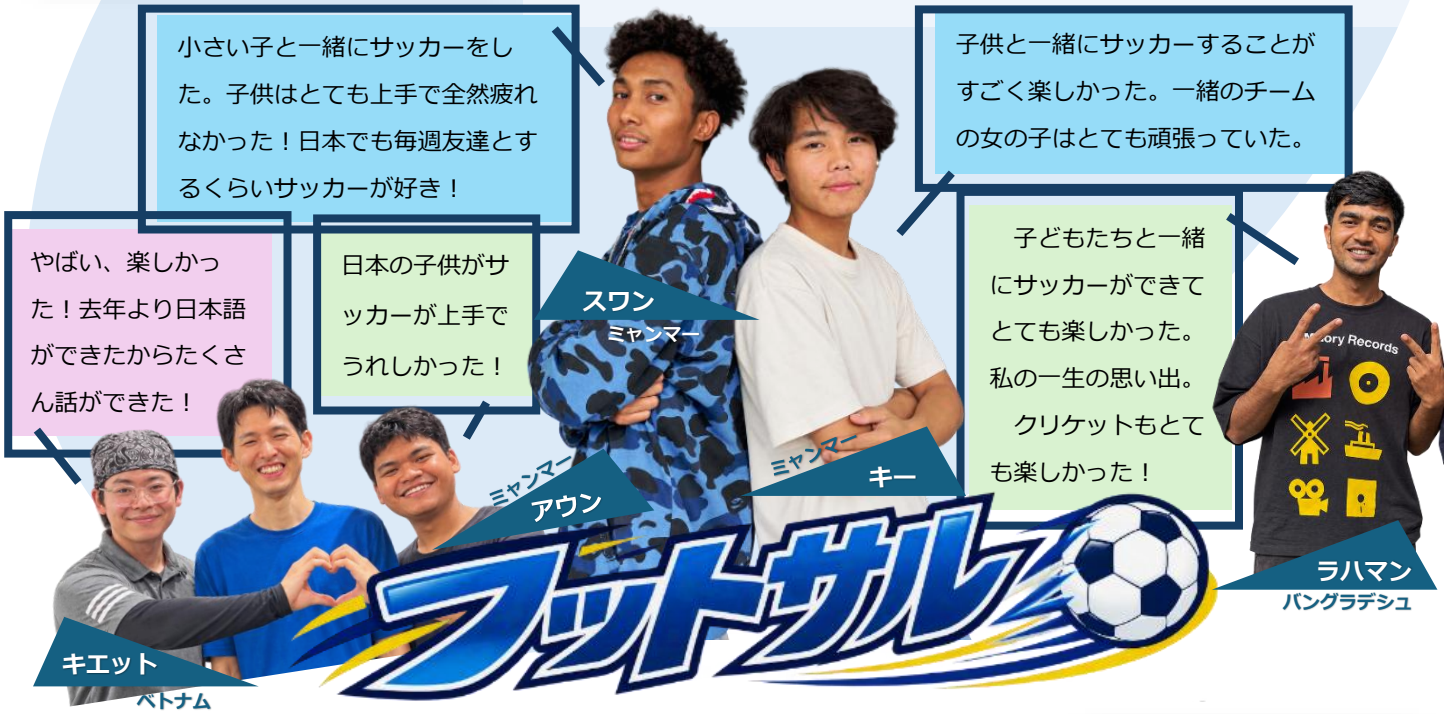
JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
国際ことば学院日本語学校



9 月 20 日（日）、静岡フットサルスタジアム Vivace にて世界ワールドウェルネスウィークエンドの一環として、本校の学生と日本人の方が交流するフットサルイベントが開催されました。留学生、県内に住む日本人合わせて約 30 人名がサッカーで 2 時間汗を流しました。



家族での参加も多く、小学生ぐらいの子も参加しており、国籍、性別、年齢を超えて和気あいあいとした雰囲気の中でイベントを楽しむことができました。昨年参加した 2 年生は、去年知り合った参加者との再会を喜んでいました。このようなイベントが毎年行われることで留学生と地域の方々との輪が広がっていけばいいなと感じました。（田中岳）



留学生の看護体験



9 月 10 日（木）、F クラスの留学生が清水看護専門学校の看護学生 3 年生との共同授業を行いました。留学生たちは自己紹介や自国の文化、医療、日本人に聞きたいことなどについて準備して臨みました。当日はグループごとに、お互いの学校生活、文化など様々な話題で初対面とは思えないほど盛り上がり、笑いの絶えない交流となりました。後半の MRI 検査を想定した模擬問診では、留学生が外国人患者役となり、看護学生側が写真や「やさしい日本語」を使って説明。外国人患者とどのように対応するかを実践的に考える機会となったようです。校内見学では、医療器具や本物そっくりの赤ちゃん人形に興味津々。看護の学びにも触れることができました。この共同授業に参加した学生たちからは「お互いにいい勉強になった」「もっと日本語で話せるようになりたい」という声も聞かれ、双方にとって充実した一日となりました。（中村）



JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
国際ことば学院日本語学校







フットサルと同じイベントで 9 月 19 日（土）、恩田原公園にて、クリケットイベントが開催されました。参加学生 15 名、日本人の方は小さい子供から大人までの約 20 名が参加しました。日本人のほとんどが初めてクリケットをしましたが、留学生から丁寧に教えてもらいながら楽しんでいた様子が見られました！ありがとうございます。

（堀場）

クリケット



サミ
バングラデシュ

日本でも毎週仲間とクリケットをしている！クリケットを全然しらない日本の人に教えることができて本当に楽しかった。もっとたくさんの日本人にも知ってほしい。

クリケットをどうやってやるのか教えた。私は、スリランカの学校の U19 チームのキャプテンをしていた。日本で教えるのは難しかったけど楽しかった。

パンタカ
スリランカ



ソイコト
バングラデシュ

ルールを全然しらない日本の人に教えるのは本当に面白い。フットサルも、子供たちの上手なプレーを見て、びっくりした。

大学生と防災を考える…



9 月 15 日（火）、静岡大学グローバル共創科学部の学部生と、C クラス・D1 クラス・D2 クラスの留学生が、防災を考える活動として「HUG」に挑戦しました。「HUG」とは、「避難所運営ゲーム」を略したもので、留学生は被災者に見立てたたくさんのカードを、大学生のサポートを受けながら避難所内の教室に配置したり、トラブルやイベントに対応したりしました。この活動を通して、「認知症」「引きこもり」などの新しい言葉を学び、初めての日本の大学生との交流も楽しむことができました。ふりかえりでは、災害時であっても他の人の迷惑にならないように行動したい、相手の立場を考えることを意識したいという声が聞かれました。（中尾）



チェット　ネパール

一番必要だと思ったものは、非常トイレ。動くことが大変な人は避難所でも近くに非常トイレを置く必要がある。地震防災センターや今回の授業など、災害について学ぶことが多くて知識をたくさんもらえた。ネパールでも災害のときの準備をするようになってきているので良いことだと思っている。

HUG というゲームが楽しかった。もし、地震がきたら何をするのかわかるようになった。日本語のわからない外国人も避難所にいるかもしれないから、もし私でわかる言葉の人がいたら助けたい。



ネトゥミ　スリランカ

MT.FUJI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
富士山日本語学校

2026年10月4日(日)
# 第12回 感謝祭

今年の感謝祭のテーマは、

「ごちゃまぜから何が生まれる？」

国籍も、年齢も、性別も。そして1年生も2年生も。
すべての枠組みを飛び越えて、
みんなが全力で混ざり合う特別な一日！

この未知数の"ごちゃまぜ"から、一体どんな化学反応が起きたのか？
誰も見たことがない新しくて最高に熱い何かがここから生まれる！

ご ちゃ ま ぜ







ウクライナ：サーシャ





ホワイエでは、7か国のお茶の紹介と華やかな各国の衣装の紹介が行われました。学生手作りの顔はめパネルでパシャッと写真を撮られるお客様。お茶の紹介では、積極的にお客様へお茶を勧める学生たち。**「熱いですから気をつけてください」**という気遣いの言葉に、お客様が優しく目を細めて微笑まれる様子がみられました。
そんな心温まるやり取りが会場のあちこちで見られ、まさに今回のテーマである**「ごちゃまぜ」**から、素敵な絆が生まれた瞬間でした。



ベトナム：コン



続く、ステージ部門では、「ごちゃまぜ」というコンセプトの通り、先輩後輩、国籍の垣根を越えた出し物を披露いたしました。
今年のスピーチでは、審査員による審査方式から、「最も多くの人の心に届いたスピーチ」を選ぶため、来場された全ての方々による投票方式に変更しました。その結果、インドネシアのアレテアさんが選ばれました。タイトルは「不完全な言葉で伝える勇気」。間違いを恐れず、日本語で話していくことの大切さを語りました。また、成果発表では、先輩と後輩が力を合わせ、歌や朗読、プレゼンテーションを披露しました。
グローバルステージでは、インドネシアの学生によるバンド演奏、三か国の学生による日本の歌、最後はスリランカ、ネパール、ベトナム、ミャンマーの民族舞踊と、盛りだくさんの内容となりました。学生たちの緊張、国への誇り、そして力を出し切った達成感など、様々な感情と活力がステージから観客の皆さんに伝わったのではないでしょうか。













学校法人 国際ことば学院

餃子パーティー＠専門学校











餃子(中国)



モモ(ネパール)



ラッペ(ミャンマーのサラダ)

10月30日（金）専門学校にて『餃子パーティー』を行いました。
今回は3か国のコラボで、中国（豚肉餡）・ネパール（鶏肉餡）・ミャンマー（お茶の葉サラダ）の料理を作ってみました！
朝から準備をしたので、とてもいい匂いが学校を包んでいて、準備段階からお腹がグーグー鳴っていました(´艸｀)

餃子の皮を包む時に、職人技を披露してくれた学生もいて、「すごーい！」と歓声が上がっていました。この学生はネパールでお店をやっていたそうです。いつもとは違う意外な一面に職員たちもびっくり！



みんなで包んで食べた餃子もラッペもとっても美味しかったです。



この日は地域の方や、支援者の方も一緒に楽しみました。
ご参加いただいたみなさまありがとうございました。
また朝から準備してくれた学生たち、そしていつも美味しい餃子を教えてくれる俞先生、ありがとうございました。

＜編集後記＞編集長：山田/ 編集：杉山(み)、青山、田中(知)、西沢
秋がやってきました。やっと涼しくなりました。夏は好きな季節ですが、近年は酷暑が続き溶けてしまいそうだったので、涼しさが待ち遠しかったです。でも９月はほとんど雨。根っこが生えてきそうでしたが、10月から晴れの日が続き、どこにでかけようかなぁと楽しい妄想が始まります。

KOKUSAI KOTOBA GAKUIN GROUP
学校法人 国際ことば学院グループ

COLLEGE OF FOREIGN LANGUAGES
国際ことば学院外国語専門学校
〒422-8062 静岡県静岡市駿河区稲川3-9-4　TEL:054-270-7091 / FAX:054-286-7091
WEBSITE:https://sp.kotoba.ac.jp　E-MAIL:ask@kotoba.ac.jp

JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
国際ことば学院日本語学校
〒422-8076 静岡県静岡市駿河区八幡3-2-28　TEL:054-284-8383 / FAX:054-284-8338
WEBSITE:https://jp.kotoba.ac.jp　E-MAIL:info@kotoba.ac.jp

MT.FUJI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
富士山日本語学校
〒416-0944 静岡県富士市横割1-6-16　TEL:0545-30-8680 / FAX:0545-30-9558
WEBSITE:https://fujisan.kotoba.ac.jp　E-MAIL:fujisan@kotoba.ac.jp